

卷末資料-1 分析対象とした大規模崩壊全事例リスト

降雨による事例の番号	発生年	発生日月(判明している段階に応じて)	発生都道府県	箇所及び事例名	最も近い気象官署(51官署中)	箇所数	代表的な崩壊の合計土砂量(万m ³ 単位)	近代観測開始以前を中心に文献④によって追記した事例を明記。
1	1176	11.19	新潟県	魚野川・石打			2100	④
2	1441	7	長野県	高瀬川・鹿島川・八沢			64	④
3	1642	9.3	宮崎県	一ツ瀬川・三納			7.5	④
4	1707		静岡県	宝永・大谷崩れ(大池他3箇所)			最大1200, 合計土砂量不明	④
5	1742	8.3	埼玉県	荒川・矢那瀬			4	④
6	1757	6.24	長野県	梓川・トバタ崩れ			900(or 150)	④
7	1788	7.26	高知県	物部川・堂の岡			200	④
8	1870	9.18	三重県	木津川・伊賀上野(1854年地震断層による隆起が素因)			不明	④
9	1877		山形県	最上川・鮭川・真室川町大谷地			160	④
10	1885	7.1	徳島県	美馬市脇町東赤谷名			50	
11	1886	9.24	山口県	周防大島・屋代郷之坪及び浦野・文珠山			不明	④
12	1889	8.19～20	奈良県	明治十津川大水害・奈良県		奈良県内27(内、十津川村22)	最大3600, 判明している箇所の合計土砂量2億61	
13	1889	8.19～20	和歌山県	明治十津川大水害・和歌山県		和歌山県田辺市3	不明	
14	1891	6.11	長野県	北安曇郡白馬村・姫川水系松川・ガラガラ沢			320	
15	1892	7.22	徳島県	那賀郡那珂町古屋久保・旧上那賀町・那賀川・高磯山			430	
16	1892	7.25	徳島県	海陽町保瀬(旧海南町)・海部川			200	
17	1895	8.5	岐阜県	揖斐郡揖斐川町(旧坂内村)・揖斐川支川			150	
18	1898	9.11	山梨県	南巨摩郡南部町成島	甲府		180	
19	1900		山梨県	富士川支川・大柳川・十川	甲府		15	④
20	1902	5.17	新潟県	妙高市・栗立山・旧新井市	長野		不明	
21	1911	8.1	長野県	北安曇郡小谷村・稗田山崩れ	長野		15000	
22	1912	9.23	香川県	高松市塩江町上西	高松		90	
23	1932	7.19	富山県	黒部市(旧下新川郡愛本村)	伏木		不明	
24	1934	7.10	石川県	石川郡白峰村・手取川上流別当谷	福井		164.1	
25	1937	8.7	富山県	黒部市(旧下新川郡内山村)	伏木		不明	
26	1943	9.18	大分県	佐伯市新開地区(旧南海部郡因尾村)	大分		150	
27	1948	9.16	岩手県	宮古市門馬(旧川井村)	宮古		不明	
28	1953	6.28	佐賀県	唐津市(旧松浦郡入野村)	佐賀		7	
29	1953	7.17～20	和歌山県	有田川災害(和歌山県有田郡及び伊都郡)	和歌山	17	最大518, 判明している箇所合計土砂量1397.7	
30	1953	7.26	神奈川県	足柄下郡箱根町強羅	横浜		80	
31	1953	7.23	岐阜県	高山市奥飛騨温泉郷中尾(旧古城郡上宝村)	高山		500	
32	1959	8.14	山梨県	韮崎市清哲町青木	甲府		12	
33	1959	9.1	山梨県	北杜市武川町(旧武川村)	甲府		12	
34	1961	6.29	長野県	三六災害・下伊那郡大鹿村	飯田		270	
35	1963	8.1	熊本県	球磨郡五木村横手谷	熊本		30	
36	1965	9.1	徳島県	三好市東祖母谷大西	徳島		12	
37	1965	9.15	岐阜県	揖斐郡揖斐川町(旧藤橋村及び旧根尾村)	岐阜	3	最大183,判明している箇所合計383	
38	1965	9.15	福井県	大野市中島(旧大野郡西谷村)	福井		33	
39	1969	8.11	富山県	黒部市(旧宇奈月村)黒部川流2/2	伏木		600	
40	1969	8.7	富山県	富山市大山町有峰	伏木		15	
41	1971	8.30	宮崎県	宮崎県東臼杵郡南郷村，児湯郡西米良村鳶の元	宮崎	2	最大74, 箇所合計土砂量97.6	
42	1972	7.5	高知県	繁藤災害・香美市土佐山田町繁藤	高知		10	
43	1972	7.6	宮崎県	えびの市真幸町内檉地区	宮崎		不明	
44	1976	7.11	静岡県	賀茂郡東伊豆町	静岡		13	
45	1976	9	徳島県	美馬市穴吹町蔭四合地及び木屋平富士ノ池谷	徳島	2	最大30、箇所合計土砂量42	

46	1976	9.13	兵庫県	宍来市一宮町福知(旧宍粟郡一宮町福知)	神戸		60	
47	1977	8.25	宮崎県	東臼杵郡美郷町(旧南郷町)	宮崎		不明	
48	1978	6.24	鹿児島県	伊佐市大口白木(旧大口市)	鹿児島		1.2	
49	1978		高知県	土佐郡土佐町有間	高知		372	
50	1980	5.27	富山県	黒部市(旧下新川郡宇奈月町)	伏木		不明	
51	1981	7.7	北海道	様似郡様似町字新富	帯広		100	
52	1981	8.22	長野県	須坂市仁礼	長野		13	
53	1982	7.25	宮崎県	東臼杵郡椎葉村不土野	宮崎		100	
54	1982	8.13	宮崎県	西都市譲葉	宮崎		10	
55	1982	8.4	奈良県	五條市西吉野町屋那瀬(旧吉野郡西吉野村和田)	和歌山		61	
56	1982	8.1	山梨県	南アルプス市芦安芦倉(旧中巨摩郡芦安村)	甲府		不明	
57	1983	7.23	島根県	浜田市穂出町中場	浜田		1.5	
58	1989	9.13	長崎県	新上五島町丸尾郷(旧南松浦郡新魚目町)	長崎		19	
59	1991	9.1	静岡県	下田市落合小坂沢	静岡		12	
60	1993	6.5	山形県	東田川郡庄内町(旧立川町)	山形		576	
61	1994	11.1	山形県	最上郡戸沢村	山形		32.56	
62	1995	7.12	富山県	黒部市(旧下新川郡宇奈月村)	伏木	2	最大, 箇所合計共不明	
63	1997	7.14	熊本県	八代市油谷(旧坂本村)	熊本		10	
64	1997	7.1	鹿児島県	出水市針原	熊本		20	
65	1997	7.12	島根県	出雲市奥宇賀町平田(旧平田市)	境		10	
66	1997	7.10	岐阜県	高山市奥飛騨温泉郷神坂(旧古城郡上宝村)	高山		30	
67	1998	9.16	山形県	米沢市板谷地内	山形		不明	
68	1999	6.1	山梨県	南巨摩郡身延町(旧中富町)	甲府		8.4	
69	1999	9.22	岐阜県	美濃市吉川町矢口	岐阜		11	
70	2000	9.1	岐阜県	中津川市	岐阜		120	
71	2001	7.4	富山県	黒部市(旧下新川郡宇奈月町)	伏木		不明	
72	2002	4.15	青森県	西津軽群深浦町大字岩崎	秋田		25	
73	2003	7.2	熊本県	水俣市宝川内2/2	熊本		9.6	
74	2004	7.13	新潟県	三島町中永地区	長野		不明	
75	2004	8.2	徳島県	那賀郡那賀町阿津江	徳島		100	
76	2004	8.1	奈良県	大塔村宇井	和歌山		20	
77	2004	9.29	愛媛県	新居浜市大生院	松山		0.65	
78	2004	9.29	三重県	大台町(旧宮川村始神谷)	津	4	最大33,箇所合計土砂量58	
79	2004	9.7	高知県	高知県香美市物部町別府中尾	高知		不明	
80	2004	9.4	宮崎県	宮崎市田野町甲うつら谷右支溪	宮崎	11	最大630,判明分の箇所合計土砂量289	
81	2006	7	熊本県	球磨村皆伐跡地	熊本		不明	
82	2007	7.11	鹿児島県	船石川	鹿児島		10.5	
83	2010	7.3	鹿児島県	船石川	鹿児島		17.8	
84	2011	9.3	奈良県	紀伊半島大水害(奈良県十津川村赤谷、長殿等)	和歌山	奈良県54	最大2513,箇所合計土砂量6550.1	
85	2011	9.3	和歌山県	紀伊半島大水害(和歌山県田辺市熊野、伏菟野他)	和歌山	和歌山県14	最大474,箇所合計土砂量785.3	
86	2013	8.9	秋田県	仙北市田沢湖田沢供養佛	秋田		9.5	
87	2017	7.5	大分県	日田市小野	大分		11.1	
88	2017	7.5	福岡県	朝倉市乙石	福岡		4.32	
89	2018	4.11	大分県	中津市耶馬溪町大字金吉	大分		2.12	
90	2018	9.5	京都府	福知山大江町	京都		40	
91	2018	11.2	北海道	厚真町日高幌内川	札幌		4.8	

融雪による事例の番号	発生年	発生日(判明している段階)	発生都道府県	箇所及び事例名	最も近い気象官署	箇所数	代表的な崩壊の合計土砂量(万m ³ 単位)	近代観測開始以前を中心に文献④によって追記した事例を明記。
1	1939	4.21	長野県	北安曇郡小谷村・親沢	長野		650	
2	1963	3.16	新潟県	能生地すべり・糸魚川市小泊(旧西頸城郡能生町)	長野		15	
3	1967	4.26	新潟県	魚沼市水沢新田(旧北魚沼郡広神村)	長野		84	
4	1967	5.4	新潟県	糸魚川市・大所川左岸赤禿山	長野		50	
5	1978	5.18	新潟県	妙高市(旧妙高村)	長野		18	
6	1992	4.9	北海道	浦河郡浦河町字上杵臼(地震後更に融雪で滑動)	帯広		17	
7	1996	12.6	長野県	北安曇郡小谷村	長野		3.9	
8	1997	5.4	長野県	長野市鬼無里日影(旧上水内郡鬼無里村)	長野		92.6	
9	1999	3.1	青森県	十和田市奥入瀬(旧十和田湖町)	秋田		20	
10	2000	5.1	山形県	鶴岡市大島	山形		不明	
11	2004	5.17	石川県	白山市(旧石川郡白峰村)・手取川上流別当谷	福井		17.6	
12	2004	5.11	山梨県	南巨摩郡早川町奈良田2/2	甲府		100	

出典：①土木研究所資料No. 4155「深層崩壊の発生の恐れのある溪流抽出マニュアル(案)」(左の資料では地震に起因するもの及び地すべりを除いていることに留意)；
②天然ダムと災害，田畑茂清・水山高久・井上公夫著，古今書院(2002)；③日本の天然ダムと対応策，水山高久監修、古今書院(2011)；④歴史的大規模土砂災害地点を歩く，井上公夫著，いさぼうネット，丸源書店，2018；⑤国総研資料第1120号(STCのSAB0から抽出して追加したものを含む)